

第2号議案

平成25年度大阪府公立高等学校入学者選抜における選抜制度の改善方針
及び主な日程について

平成25年度大阪府公立高等学校入学者選抜における選抜制度の改善方針及び主な日程を
次のように定める。

平成24年3月28日

大阪府教育委員会

<参 考>

[趣旨]

- 1 大阪府公立高等学校の入学者選抜について、選抜方法等の選抜制度を改善する。
- 2 平成25年度大阪府公立高等学校入学者選抜の主な日程を定める。

[根拠規定]

大阪府教育委員会事務決裁規則

(委員会決裁事項)

第3条 委員会が会議の議決により決裁する事項は、次のとおりとする。

- 一 教育に関する基本計画の策定に関すること並びに重要な条例案の立案
その他の委員会の事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること。

入学者選抜制度の改善方針（案）

「入学者選抜制度の改善に関する検討会議」からの報告書を踏まえ、以下の考え方に基づいて、平成 25 年度から入学者選抜制度の改善を行う。

- 公立高校は就学機会の保障という役割を担うことを前提にすること。
- 中学校教育に与える影響には十分配慮すること。
- 今回の改善は制度に関する当面の課題への対応とすること。

1 前期・後期選抜の再編

①学校選択の機会の公平性を改善

- ・前期・後期制は維持した上で、受検者が前期ですべての昼間の高校の中から志願先を選べる制度とする。
- ・後期だけで選抜を実施している昼間の高校について、募集人員の一部を前期に分割する。
- ・前期比率の抑制という観点から、1校あたりの分割募集数は2学級（80名）までとする。

②わかりやすい制度

- ・前期においては、「3教科型の学力検査」に合わせて、受検者の能力・適性や意欲を見極める手段として「特色ある選抜方法」を実施する。
（1-①における前期分割分についても、各学校の特色ある取組に基づく「求める生徒像」を踏まえた同様の選抜方法とする。）
- ・後期においては、昼間の高校は「5教科型の学力検査」を実施する。

2 選抜日程の繰り上げ

- ・受検者サイドの強い希望に応え、中学校の卒業式よりも早く後期の学力検査が終えられるよう、選抜日程を繰り上げる。

3 多様な選抜方法の検討

- ・推薦入試については、客観性・公平性のある推薦基準や判定基準の設定について課題が大きいため、引き続き検討する。

平成25年度大阪府公立高等学校入学者選抜の主な日程

平成25年度大阪府公立高等学校入学者選抜の出願期間、学力検査及び合格者発表の期日は次のとおりとする。

	選抜の種類	課程	出願期間	学力検査	合格者発表	
前期入学者選抜	昼間の高等学校	普通科 (専門学科併置校を除く。)	全日制	平成25年 2月13日(水)～ 2月14日(木) 〔専門学科のうち音楽科については、 平成25年 1月31日(木)～ 2月1日(金)〕	平成25年 2月20日(水)	平成25年 2月26日(火)
		普通科総合選択制	全日制			
		普通科単位制高等学校	全日制			
		専門学科	全日制			
		総合学科 (クリエイティブスクールを除く。)	全日制			
		全日制総合学科(クリエイティブスクール)、多部制単位制Ⅰ・Ⅱ部(クリエイティブスクール)				
後期入学者選抜	昼間の高等学校	普通科	全日制	平成25年 3月4日(月)～ 3月5日(火)	平成25年 3月11日(月)	平成25年 3月18日(月)
		普通科総合選択制	全日制			
		全日制総合学科(クリエイティブスクール)、多部制単位制Ⅰ・Ⅱ部(クリエイティブスクール)				
	多部制単位制Ⅲ部(クリエイティブスクール)、定時制					
	通信制の課程		平成25年 3月3日(日)～ 3月5日(火)	実施せず		

※ 上記以外の日程については、平成25年度大阪府公立高等学校入学者選抜方針において定める。

入学者選抜制度の改善に関する報告書

平成24年3月

入学者選抜制度の改善に関する検討会議

1 はじめに

平成 23 年度大阪府公立高等学校入学者選抜は、私立高校の授業料無償化の拡大等によって選抜環境が変化し、公私間で流動化が起こった結果、公立高校の昼間の学校では、後期選抜で約 3,000 人の不合格、二次選抜終了時点で 49 校、約 1,500 人の志願割れが起きた。学校別にみると、一部の学校に志願者が集まる一方で、志願倍率が低迷する学校が現れるという、いわゆる二極化の傾向が見られた。[参考資料1]

本検討会議は、府教育委員会がこのような状況を踏まえて示した、入学者選抜制度の見直しに向けた方向性に基づき、その具体的な改善方策を提言することを目的に設置された。計 3 回にわたって議論を行ない、「前期・後期選抜の再編」「選抜日程の繰り上げ」「多様な選抜方法」という 3 つの検討項目について関係者の意見をまとめたので、ここに以下の通り報告する。

今後、府教育委員会においては、この報告内容を受け止め、入学者選抜制度が中学生の適切な学校選択とともに中学校教育と高等学校教育のよりよい接続に資するよう改善されることを望むものである。

2 基本的な考え方

検討会議では、入学者選抜制度の改善の検討にあたり、その前提として、中学生・保護者に選ばれる高校となるためには、まず教育の質の向上に向けたさらなる取組を進めることが不可欠であること、併せて、中学生の進路実現を保障していくためには、保護者、中学校、高校の三者が一層の連携強化に努める必要があると考えた。

そのうえで、入学者選抜制度の改善は、以下の点に留意して進めることが肝要である。

- 公立高校は就学機会の保障という役割を担う責務があること。
- 高校教育は義務教育に続いて成り立っているものであることから、公私ともに中学校教育に与える影響には十分配慮すること。
- どのような変更を行うとしても、受検者が混乱しないよう、十分周知すること。






また、入学者選抜制度は中長期的な安定が望まれるものであるが、府内の公立中学校卒業生数が平成26年をピークに減少に転じるなど、今後もしばらくの間は選抜環境の変化が見込まれることから、今回の改善は制度に関する当面の課題への対応とすることが望ましいと考える。

検討会議では、これらの点に留意しながら、府教育委員会から示された「前期・後期選抜の再編」「選抜日程の繰り上げ」「多様な選抜方法」の3つの項目について、議論を重ねてきた。各項目における意見については、保護者、中学校関係者、高等学校関係者という立場により違いが見られ、時には対立する内容も見られたが、それぞれの立場も踏まえながら論点を整理し、慎重に合意点を模索してきた。そのため、今回の報告においては、合意した内容とともに、出された意見についてもできる限り触れるようにしている。

3 各検討項目について

(1) 前期・後期選抜の再編について

【意見のポイント】

保護者	 誰にでもわかりやすい制度に改善すべき。  頻繁な制度変更や各学校で取扱いが異なる事態は避けるべき。
中学校	 前期選抜の募集人員の比率を高めることは中学校の学習環境に影響を与えるため望ましくない。
高校	 選抜時期について学校間の公平性を求める要望は多い。  これまで取り組んできた各学校の特色づくりが活かされるような枠組みが望ましい。

【まとめ】

○複数の受検機会を維持すること

現行制度では、特色ある教育課程をもつ学校・学科（専門高校や総合学科高校、専門学科等）の選抜は前期で実施し、普通科など、その他の学校・学科の選抜は後期で実施するという考え方で、前期・後期という複数の受検機会を提供している。[参考資料2]

中学生の学校選択の機会を確保する観点から、今後とも複数の受検機会の提供という枠組みは維持すべきである。

○学校選択の機会の公平性を改善すること

前期・後期の両方で受検することができる学校は、現行制度では、専門学科を併置している普通科高校に限られているため、志望校の違いによって不公平感が生じている。

学校選択の機会の公平性を改善するためには、後期でしか受検できない普通科高校を前期でも受検できる仕組みに変更することが考えられる。その具体策として、普通科という同じ学校群を学校単位で前期と後期に振り分ける方法と、各学校の募集人員を前期・後期に分割する方法がある。前者は選抜時期の違いによって、かつての大学の一期校、二期校ができるような状況が強く懸念されることから、後者の方法が望ましい。ただし、この場合も選抜時期の違いが一面的な序列意識につながるよう、制度設計並びに入学後の指導に努める必要がある。また、各学校の果たすべき役割や取組上の特色を踏まえ、公平感やわかりやすさに難点があるものの、すべての普通科を分割して前期で実施するのではなく、一部の学校は分割対象外にするという考え方も出された。

各学校の募集人員を前期・後期に分割する具体的な方法として、後期実施校の募集人員の一部を前期に分割することを想定して検討を重ねた。その中で、前期選抜の比率を抑え、より一層公平性の改善効果が期待される方法として、前期実施校も募集人員の一部を後期に分割することについても意見が出された。しかし、前期実施校の中には、かつて分割していたものを一本化してきた学校もあり、再び前期実施校を後期に分割することは、これまでの制度の基本的な考え方からは大きな改編となるので、より全体的な視点から検討する必要がある。

○制度をわかりやすくすること

特色ある教育課程をもつ学校・学科を前期に実施するという現行制度の考え方はわかりやすいが、前期・後期に関わらず、学力検査の教科数が統一されていないなど、選抜方法や選抜資料が混在していて制度全体をわかりにくくしている。

特色ある教育課程をもつ学校・学科の選抜には、受検者の能力・適性や意欲を見極める手段として、学力検査・調査書に実技や面接などを加味する「特色ある選抜方法」が適している一方、受検者の負担に配慮すれば、学力検査は3教科が望ましい。

それ以外の学校・学科は、「特色ある学校・学科」と区別し、学力検査・調査書による選抜を実施することにより、一定わかりやすく整理することができる。

そのうえで、前期と後期の違いをわかりやすくするため、前期では「3教科型の学力検査」と「特色ある選抜方法」を基本とする選抜を実施し、後期は「5教科型の学力検査」の選抜を実施する、というように整理することなどが考えられる。

○前期選抜の比率を考慮すること

早い時期に進路先が決まる生徒の増大は、中学校の学習環境に大きく影響するため、前期・後期選抜の募集人員の比率を検討する際に十分留意する必要がある。「大阪の教育力」向上プランにおいても、同じ理由から後期選抜の比率を高めるという方向性が示されている。[参考資料7]

一方で、授業料無償化の拡大により私立高校を選びやすくなり、「早く進路を決めたい」というニーズが高まるなど、プラン策定時から選抜をめぐる環境が大きく変化していることから、「受検者ニーズに合致しているか」「子どものためになっているか」という観点で改めて見直し、府民に理解を求めることが不可欠である。

具体的な前期選抜の比率については、現行程度（平成24年度選抜では公立全体で32.5%）から5割を超えない範囲の意見が多かった。

例えば、前述した「受検機会」の公平性を増す方策をとろうとすると「前期選抜の比率」は増すことになる。前期・後期選抜の再編を検討するには、「受検機会」「わかりやすさ」「前期選抜の比率」の3つの観点それぞれに十分留意することが大切であり、具体的な方策を検討する際には、これら3つの観点から適切なものとなるよう総合的に判断することが求められる。

(2) 選抜日程の繰り上げについて

【意見のポイント】

保護者	✚ 制度の改善効果を期待するのであれば、中学校の卒業式までにせめて学力検査は終わらせるべき。
中学校	✚ 進路懇談や卒業式などの中学校の行事日程に配慮し、現行日程を前提に検討してほしい。
高校	✚ 府立高校長の中には現状維持の意見がある一方、高校間の競争条件をそろえるという観点から繰り上げを望む声もある。

【まとめ】

○公私同一日程の実施は課題が多いこと

公私を同一日程にすることによって、高校側に競争機会を公平に提供できるという効果が期待される一方で、不合格者の増加や高校間の二極化傾向の拡大、公私間で日程の繰り上げ競争に陥ることが懸念される。

具体化に向けて検討する場合には、私立高校も含めた議論の場が必要である。

○後期選抜日程の繰り上げを検討すること




私立の選抜日以降に公立の日程を設定するという条件では小幅な繰り上げしかできないため、大きな効果は期待できないものの、中学校の卒業式よりも早く学力検査を実施するのであれば、保護者の強い希望に沿うことができる。

ただし、中学校、高校ともに学校行事等の制約があるため、関係者間で十分な調整が望まれる。

なお、選抜日程の変更にあたっては、受検者の混乱を避けるために、府立高校に限らず公立高校全体の方針として打ち出すべきである。

(3) 多様な選抜方法について

【意見のポイント】

中学校	 推薦入試の導入を求める意見はあまりない。  推薦入試が導入されるとさらに前期選抜の比率が高まる懸念がある。
高校	 推薦を含めた特色入試を実施してほしいという意見は多い。

【まとめ】

○推薦入試の導入はさらなる検討を行うこと

学力検査を実施しない選抜方法としての推薦入試については、客観性・公平性のある推薦基準や判定基準の設定という課題について十分に検討する必要がある。

これまで大阪府では、高校教育において「地域性」「多様性」を大切にしてきた経緯がある。生徒に寄り添う指導を継続するために、中高連携を一層強化することが求められている。このような背景から、現行の中高一貫選抜をもとに、中高連携・地域連携の観点から、推薦入試の導入を検討することについては意義があると考えられる。その際、中学校で頑張ったことを評価できるような基準づくりと併せて検討することが望まれる。

また、推薦入試の前の段階として、現行の枠組みのままで学力検査の比率を下げる方法も考えられる。

一方、実技検査で特に専門的な特性が要求される学科については、生徒の特性をいかすことのできるような推薦入試について、引き続き検討することが望まれる。

(4) その他の課題について

今回の議論の中で、当初示された3つの検討項目には入っていないため、十分な議論は行われなかったが、入学者選抜に必要な調査書や、中学校における進路指導のあり方について意見が出された。

これらについても、生徒の立場に立った進路指導や選抜制度のあり方等を検討するうえで重要な観点であるので、今後も引き続き検討されることを要望しておく。

【開催概要】

平成 24 年 1 月 23 日（月）

現状の入学者選抜制度を把握し、大阪府における平成 23 年度入学者選抜結果を踏まえて制度上の課題について議論を行った。

平成 24 年 2 月 9 日（木）

3つの検討項目に沿って、具体的な改善方策に基づき、実施上の課題について議論を行った。

平成 24 年 3 月 5 日（月）

これまで議論してきた内容を確認し、入学者選抜制度の改善方策全般について議論を行った。

【検討会議の構成】

(50 音順／敬称略)

浅野 良一 (兵庫教育大学大学院 学校教育研究科 教授)

一色 尚 (東大阪大学・短期大学部 学長)

志水 宏吉 (大阪大学大学院 人間科学部研究科 教授)

大阪府公立中学校長会 代表

大阪府 P T A 協議会 代表

大阪府立高等学校長協会 代表

資 料

資 料 検討会議資料（抜粋）

参考資料 1 平成 23 年度入学者選抜結果及び今後の選抜のあり方について

参考資料 2 大阪府公立高等学校入学者選抜の時期と概要

参考資料 3 平成 24 年度選抜日程

参考資料 4 他県の選抜日程

参考資料 5 他県における推薦入試の実施状況

参考資料 6 大阪府学校教育審議会答申（抜粋）

参考資料 7 「大阪の教育力」向上プラン（抜粋）

平成 23 年度入学者選抜結果及び今後の選抜のあり方について

大阪府教育委員会

1 平成 23 年度入学者選抜の結果と分析

(1) 選抜の結果

① 高校への受入状況

- 府内公立中学校卒業者の進学率は推計値ながら過去最高の約 93.5%となり、計画進学率（93.9%）にあと 0.4 ポイントに迫った。
- 私立高校への入学者が全体の 32.2%となる一方で、公立高校の入学者数は募集人員を約 1,500 人下回り、全体の 67.8%にとどまった。

《公私比率と進学率の推移》

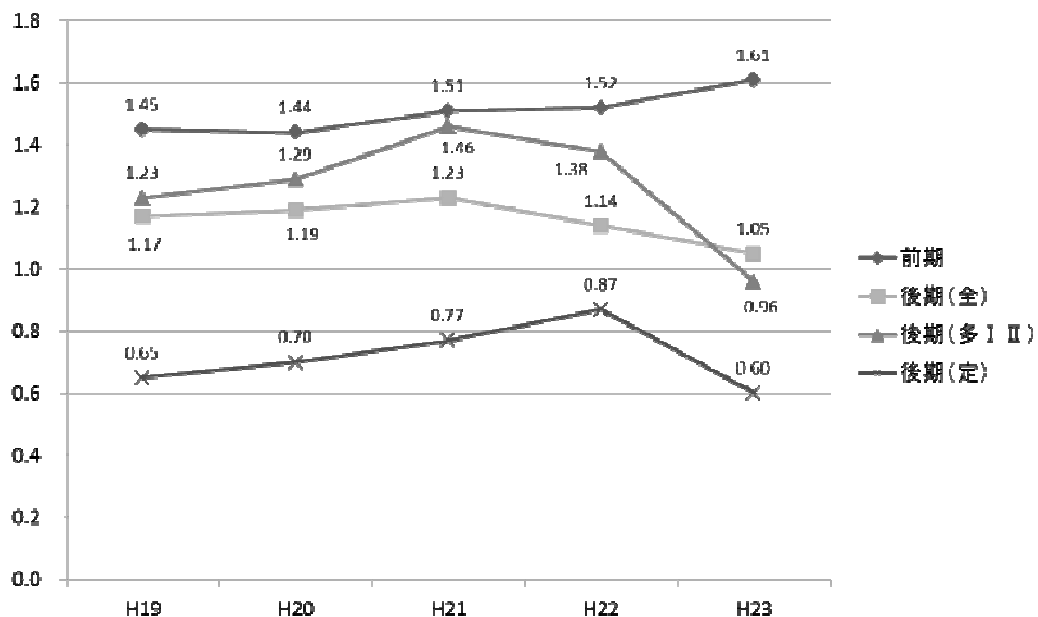
	H19	H20	H21	H22	H23
公立	70.8	70.5	71.5	72.6	67.8
私立	29.2	29.5	28.5	27.4	32.2
進学率	92.6	92.8	91.6	92.1	93.5*

※実績値のうち*は現時点での推計値を示す。

② 前期選抜

- 前期選抜では、新設された文理学科が高い志願倍率であったこともあり、前年度よりも志願倍率が上昇した。
- 文理学科以外の専門学科、総合学科等の志願状況には大きな変化はなかった。

《前後期別志願倍率の推移》



③後期選抜

- 後期選抜の志願倍率は、全体として前年度から大きく低下した。

- 一部の学校に志願者が集まる一方で、志願倍率がさらに低迷する学校もあり、公立間で二極化の傾向が見られた。

- 公立高校全体では約 3,000 人の不合格者が出る一方で、二次選抜終了時点で 49 校、約 1,500 人の志願割れが起こった。

《志願割れ経年推移》

	前・後期終了時		二次選抜終了時	
	校数	未満数	校数	未満数
H19	9	145	3	31
H20	6	177	3	60
H21	5	71	1	4
H22	9	142	7	83
H23	50	1,614	49	1,498

※公私合意の対象である全日制の課程及び多部制単位制Ⅰ・Ⅱ部に限定。

(2) 選抜結果の分析

①選抜環境の変化

○私立高校の授業料無償化の拡大

- 平成 23 年度から私立高校等の授業料無償化が拡大され、私立高校 96 校中 95 校が制度の指定

を希望し、受検者が進路先を選択する際に経済的要素を考慮する必要性が薄れた。

《私立高校生等授業料支援補助金の概要》

年収区分	授業料負担
年収510万円未満世帯	0円
年収800万円未満世帯	10万円



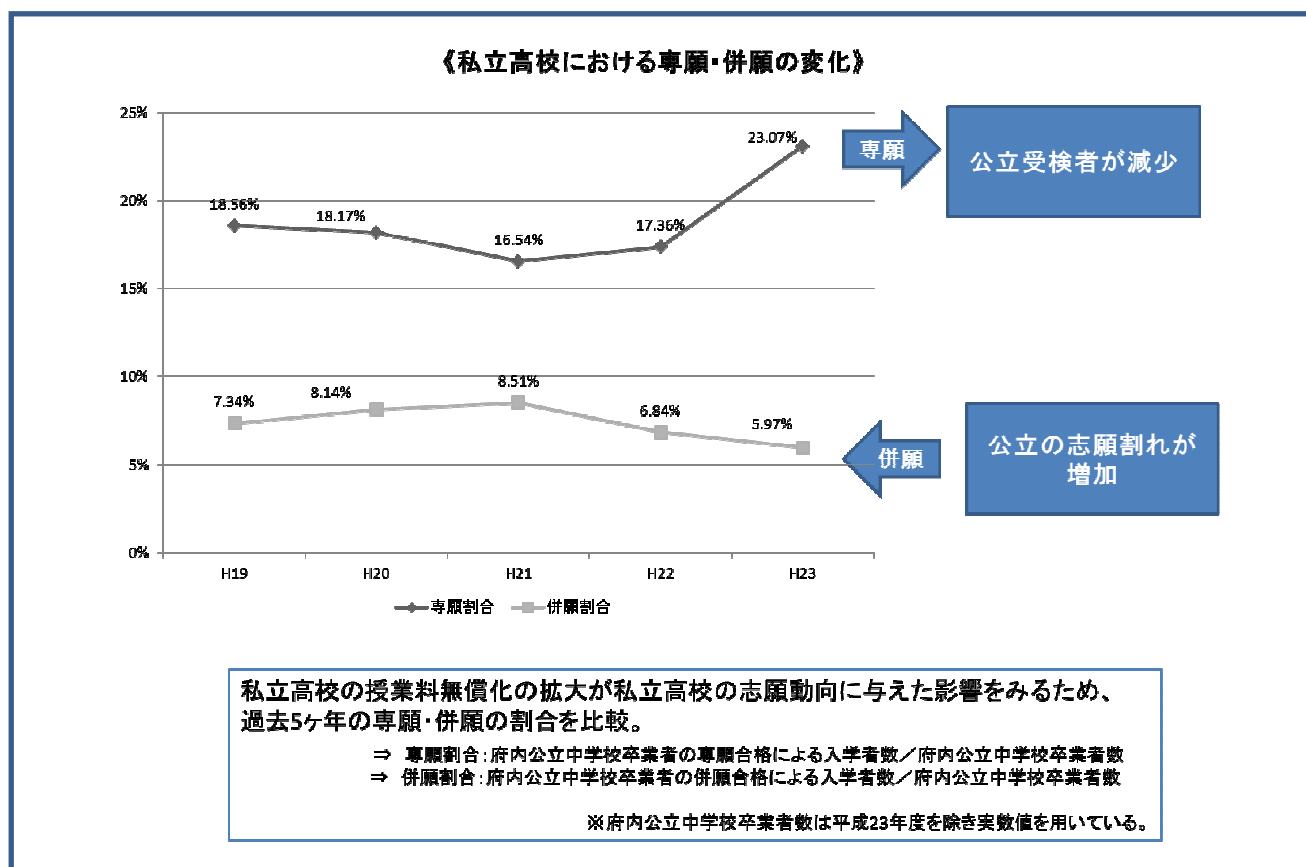
生徒カバー率：約70%

○私学経常費助成の「パーヘッドの原則」化による影響

- 中学校からの聞き取りによると、昨年度はとりわけ私立高校からの働きかけが熱心であったということから、私立高校への経常費補助金の「パーヘッドの原則」化に向けた動きが、授業料無償化拡大とあいまって、私立高校による生徒獲得への動きに影響を与えたのではないかと考えられる。

○受検者意識の変化

- 進路先を選択する際に経済的要素を考慮する必要性が薄れたことで、安全志向より行きたいと思う学校に志願するという「チャレンジ受検」の傾向が強まった。
- 早く進路先を決定したいという受検者ニーズが高まり、私立専願がその受け皿となった。
- 授業料無償化の拡大や私立高校の生徒獲得への動きにより、受検者の私立高校志向が高まった。



②大阪府教育委員会の取組

○公立高校全体の募集人員の設定

- 募集人員決定時点では公私間での流動化の規模の予想が困難であったため、平成 22 年度選抜までの実績や、「就学のセーフティネット」としての役割を踏まえ、「7:3」枠の「7」をベースに募集人員の総枠を設定した。

○学校ごとの募集人員の設定

- 総枠の範囲内で、普通科の適正規模（6～10 学級程度）等を踏まえ、各学校の募集学級数を設定した。

○募集人員を後期選抜へシフトしたこと

- 中学 3 年生の教育活動への配慮を踏まえ、中学校からの要望を受けて、平成 23 年度選抜より普通科総合選択制 20 校を後期選抜に移行したが、それに合わせた受検者の後期選抜への移行は十分ではなかった。

○中高連携を軸とした選抜に関する取組

- 中学校では中学校間や中高連携による学校情報の共有をもとに進路指導を行ってきたが、私立専願者の増加と公立高校への「チャレンジ受検」志向とが相まって、中学校の段階での進路指導の状況が変化し、これまでの中高連携の蓄積が十分発揮されなかった。

2 今後の選抜に向けての基本的な考え方

- ◎公私あわせて、進学希望者に対して就学の機会を提供し、教育の質を高めながら、大阪における高校教育の充実に努める。

- ◎公立高校として就学機会を確保する責務を担い、将来の生徒数の動向や私立高校の状況も踏まえて、公立高校を適正に配置し、「就学のセーフティネット」としての役割を果たす。

- ◎人材育成の社会的要請と府民ニーズに応えるため、これまでの府立高校の特色づくりの取組を検証したうえで、特色づくりの再構築を進めていく。また、土曜日授業の実施や教育課程の編成等については、学校の声をききながら、弾力化を含めた検討を進める。

- ◎公立高校が多くの子供・保護者に選ばれるために、選抜（選抜制度や募集人員等）については、受検機会の確保という観点と、エンドユーザーである受検者の動向を踏まえて改善する。

3 主要な課題と検討方向

(1) 選抜制度について

- 現在、公立高校の入学者選抜は、2月下旬に前期選抜（専門学科、総合学科等）、3月中旬に後期選抜（全日制普通科、多部制単位制、定時制等）を行っている。
- 今回、「早期に進路先を決めたい」という受検者のニーズが顕在化したことから、3つの選抜制度の見直し案について検討を行った。

案①	前期選抜における一括実施	受検者ニーズに応えることができるが、複数の受検機会が確保できず、調査書の評定による志願先決定を助長する恐れがある。
案②	前期後期選抜日程全体の繰り上げ	受検者ニーズに応えることができ、複数の受検機会も維持されるが、中学校、高校ともに行事日程への影響がある。
案③	前期選抜への募集人員のシフト	例えば、普通科総合選択制を含む普通科の一部を前期選抜に移行することで、受検者ニーズに一定応えることができる。

- 案①～③について総合的に判断した結果、受検機会を確保し、受検者ニーズに応えるという観点からは、案①には課題が多いことから、案②～③を中心にさらに検討を進めることとする。
- ただし、平成24年度選抜については、既に選抜日程等を公表しており、受検者の混乱や中学校・高校の教育活動への影響を踏まえ、変更を行わない。
- 今後、平成25年度選抜での実施に向けて、選抜全体の抜本的な検討を行うこととし、校長協会をはじめ関係者の声をききながら、具体的な検討を行うものとする。
- 加えて、推薦入試などの多様な選抜方法や校長マネジメントの反映についても、学校の声なきながら検討を進める。

(2) 募集人員の設定方法について

- これまで「7:3」枠の「7」をベースに設定していた公立高校全体の募集人員については、平成24年度選抜は各通学区域の公立中学校卒業生数を考慮するとともに、平成23年度選抜の実績値（67.8%）を踏まえて設定する。
- 各学校の募集学級数については、受検者の動向に対応するとともに、スケールメリットを活かした学校運営やよりきめ細かな生徒指導を可能とするためには、適正規模を弾力化する必要があると考えられる。そのため、平成24年度選抜からの実施に向けて、これまで6~10学級程度を適正規模としてきた各学校の募集学級数の弾力化を検討する。

(3) 中高連携に関する取組

- 府立高校全体の広報を強化し、各学校の広報支援を平成23年度から実施する。
 - * 『大阪府公立高等学校等ガイド』の全面改訂
 - * 教育委員会のHPに中学生向けのページを新設

(4) 私学への要望

- 受検者の学校選択に資するという観点から、私学に対して選抜関係の情報の公表を求める。
 - * 選抜関係（各校の収容定員、合格者数、学年別在籍者数、学年別学級数、1.5次入試の選抜結果等）
- あわせて、教育指標についても、エンドユーザーである受検者の要望に応えられるよう、公私ともに情報の公表に努める。

大阪府公立高等学校入学者選抜の時期と概要

(入学者選抜実施時期、学校数、学科名はいずれも平成 24 年度選抜実施予定校のものです。)

前期入学者選抜 (2月)

全日制普通科単位制 府内全域

(大阪府教育センター附属高等学校を除く。)
学年の区別がなく、自分の学習ペースにあわせ、多数の科目から選んで、学習計画をつくり学ぶことができます。

— 4校 —

全日制総合学科 府内全域

(クリエイティブスクールを除く。)
普通科目と専門科目の両方にわたって多くの選択科目があり、自分の興味・関心に応じて選択して学びます。

— 12校 —

全日制専門学科 府内全域

下に示されているそれぞれの学科に設定されている専門科目を中心に学びます。

商業に関する学科(商業科、情報科、流通経済科、マネジメント創造科、グローバルビジネス科)、農業に関する学科、工業に関する学科、情報科学科、英語科、国際教養科、国際文化科、美術科、体育科、国語科、理数科、総合科学科、サイエンス創造科、文理学科、芸能文化科、演劇科、音楽科、総合造形科、福祉ボランティア科、食物文化科

(注) 前期選抜と同時期に、センター附属選抜、帰国生選抜、中国帰国外国人生徒選抜、中高一貫選抜、自立支援選抜を実施しています。

後期入学者選抜 (3月)

全日制普通科 各学区

(単位制及び総合選択制を除く)

普通科目(国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、芸術、外国語、家庭、情報、総合的な学習の時間)を中心に学びます。

— 87校 —

全日制普通科総合選択制 各学区

普通科ですが、進路希望、興味・関心に応じて、例えば、国際理解、情報、福祉、スポーツ健康などのエリア(学ぼうとする分野のきっかけづくりや入門的な内容をまとめたもの)や科目を選択して学べます。

— 20校 —

全日制総合学科(クリエイティブスクール)、多部制単位制Ⅰ・Ⅱ部(クリエイティブスクール)

府内全域

学べる時間帯が選べる学校です。(総合学科は、入学後、1～8限の中から1日6時間の授業を選ぶ。多部制単位制は、Ⅰ部(午前)またはⅡ部(午後)を選抜時に選ぶ。)

— 全日制総合学科 4校 多部制単位制Ⅰ・Ⅱ部 2校 —

定時制、多部制単位制Ⅲ部 府内全域

— 21校に設置しています。 —

普通科、商業に関する学科、工業に関する学科、総合学科

通信制 府内全域

— 普通科 1校 —

昼間の学校

定時課程の

の通信課程

平成24年度選抜日程

月	日	曜	公立日程	府立高校(例)	私立	中学校	
2月	1日	水					
	2日	木					
	3日	金					
	4日	土					
	5日	日					
	6日	月		前期選拔出願(音楽科)			
	7日	火		↓	卒業判定会議		
	8日	水					
	9日	木					
	10日	金				私立入試	
	11日	土				私立入試・合格発表	
	12日	日				合格発表	
	13日	月					
	14日	火					
	15日	水					
	16日	木		前期選拔出願			
	17日	金		↓			
	18日	土					
	19日	日		実技検査(音楽科)			
	20日	月					
	21日	火					
	22日	水					
	23日	木		前期選抜学力検査			
	24日	金			卒業式		
	25日	土					
	26日	日					
	27日	月					
	28日	火					
	29日	水			学年末考査		1・2年学年末考査
3月	1日	木	前期選抜合格者発表			進路懇談	
	2日	金				進路希望調査	
	3日	土					
	4日	日	後期選拔出願(通信のみ)				
	5日	月				卒業式準備活動	
	6日	火		↓			
	7日	水		後期選拔出願(全・多・定・通)	在籍生徒 成績処理①		
	8日	木			在籍生徒 成績処理②		
	9日	金		↓	在籍生徒 成績処理③		
	10日	土					
	11日	日					
	12日	月			在籍生徒 成績処理④		
	13日	火			進級判定会議		
	14日	水			在籍生徒 成績処理⑤		
	15日	木			終業式		卒業式
	16日	金		後期選抜学力検査	入試業務①		選抜日程を見て卒業式の日程を決定。
	17日	土					
	18日	日					
	19日	月			入試業務②		
	20日	火		春分の日			
	21日	水			入試業務③		
	22日	木			入試業務④		
	23日	金		後期選抜合格者発表	入試業務⑤		終業式
	24日	土					
	25日	日					
	26日	月		二次選拔出願			
	27日	火					
	28日	水		二次選抜合格者発表			
	29日	木					
	30日	金					
	31日	土					

○他県の選抜日程

参考資料4

			大阪府	
月	日	曜	公立	私立
1	16日	(月)		
	17日	(火)		
	18日	(水)		
	19日	(木)		(注)私立の「%」は専願合格者の割合
	20日	(金)		
	21日	(土)		
	22日	(日)		
	23日	(月)		
	24日	(火)		一般入試 出願
	25日	(水)		
2	26日	(木)		
	27日	(金)		
	28日	(土)		
	29日	(日)		
	30日	(月)		
	31日	(火)		1次 (専) 97.9%
	1日	(水)		
	2日	(木)		
	3日	(金)		
	4日	(土)		
3	5日	(日)		
	6日	(月)		
	7日	(火)		
	8日	(水)		
	9日	(木)		
	10日	(金)		一般入試 試験
	11日	(土)	建国記念の日	一般入試 合格発表
	12日	(日)		1.5次 出願
	13日	(月)		1.5次 試験
	14日	(火)		1.5次 合格発表
4	15日	(水)		
	16日	(木)	前期選抜等 出願	
	17日	(金)		
	18日	(土)	前期 32.9%	
	19日	(日)		
	20日	(月)		
	21日	(火)		1.5次 (専) 1.9%
	22日	(水)		
	23日	(木)	前期選抜等 学力検査等 小論・実技・面接	1.5次 出願
	24日	(金)		
5	25日	(土)		
	26日	(日)		
	27日	(月)		
	28日	(火)		
	29日	(水)		
	1日	(木)	前期選抜等 合格者発表	
	2日	(金)		
	3日	(土)		
	4日	(日)		1.5次 試験、合格発表
	5日	(月)		
6	6日	(火)		
	7日	(水)	後期選抜 出願	
	8日	(木)		
	9日	(金)		
	10日	(土)	後期 67.1%	
	11日	(日)		
	12日	(月)		
	13日	(火)		
	14日	(水)		
	15日	(木)	(高校終業式)	
7	16日	(金)	後期選抜 学力検査	
	17日	(土)		
	18日	(日)		
	19日	(月)		
	20日	(火)	春分の日	春分の日
	21日	(水)		
	22日	(木)		
	23日	(金)	後期選抜 合格者発表	
	24日	(土)		

			東京都		神奈川県		兵庫県	
月	日	曜	公立	私立	公立	私立	兵庫県公立	兵庫県私立
1	16日	(月)					推薦入試 出願	
	17日	(火)						
	18日	(水)						
	19日	(木)			推薦入試 出願	前期選抜 出願	推薦 (専・併) 約50%	
	20日	(金)			推薦(専) 45%	前期選抜 出願		
	21日	(土)				前期選抜 出願		
	22日	(日)			推薦入試 試験		推薦入試 試験	
	23日	(月)			推薦入試 合格発表		推薦入試 合格発表	
	24日	(火)		推薦 出願				
	2	25日	(水)					
26日		(木)						
27日		(金)		推薦 面接				
28日		(土)		推薦 実技検査等		前期 約50%		推薦・I期等 出願
29日		(日)						推薦・I期等 (専・併) 約99%
30日		(月)		推薦 (専) 約20%				
31日		(火)						
1日		(水)				前期選抜 合格者発表		
2日		(木)		推薦 合格者発表	一般 54%			
3日		(金)					一般入試 出願	推薦入学・特色選抜 出願
3	4日	(土)						推薦入学・特色選抜 出願
	5日	(日)					一般 約50%	
	6日	(月)						推薦入学・特色選抜 出願
	7日	(火)		一次・分割前期 出願				
	8日	(水)		一次・分割前期 出願				推薦等 約28%
	9日	(木)						
	10日	(金)			一般入試 試験	後期選抜 出願先変更	一般入試 学力検査等	推薦・I期等 学力検査等
	11日	(土)	建国記念の日		一般入試 合格発表	建国記念の日	一般入試 合格発表	建国記念の日
	12日	(日)						
	13日	(月)				後期 約50%		推薦入学・特色選抜 面施等
4	14日	(火)	一次・分割前期 出願取下げ					合格発表
	15日	(水)	一次・分割前期 出願再提出					
	16日	(木)						
	17日	(金)						推薦入学・特色選抜 合格者発表
	18日	(土)		1次・前期 約80%				
	19日	(日)						
	20日	(月)						
	21日	(火)						
	22日	(水)						学力検査選抜 出願
	23日	(木)	一次・分割前期 学力検査等					学力検査選抜 出願
5	24日	(金)				後期選抜 合格者発表		学力検査選抜 出願
	25日	(土)						
	26日	(日)						
	27日	(月)						学力検査選抜 出願変更
	28日	(火)						学力検査選抜 出願変更
	29日	(水)	一次・分割前期 合格者発表					学力検査選抜 出願変更
	1日	(木)						
	2日	(金)						
	3日	(土)						
	4日	(日)						
6	5日	(月)						
	6日	(火)					一般等 約72%	
	7日	(水)						
	8日	(木)						
	9日	(金)						
	10日	(土)						
	11日	(日)						
	12日	(月)						学力検査 面接・実技検査
	13日	(火)						
	14日	(水)						
7	15日	(木)						
	16日	(金)						
	17日	(土)						
	18日	(日)						
	19日	(月)						合格者発表
	20日	(火)	春分の日	春分の日	春分の日	春分の日	春分の日	春分の日
	21日	(水)						
	22日	(木)						
	23日	(金)						
	24日	(土)						

○他県における推薦入試の実施状況

参考資料5

全国の実施状況

	都道府 県名	全ての学校・ 学科で実施	一部の学校・ 学科で実施
1	北海道		○
2	青森		
3	岩手		○
4	宮城	○	
5	秋田	○	
6	山形		○
7	福島		
8	茨城		○
9	栃木		○
10	群馬		
11	埼玉		
12	千葉		
13	東京		○
14	神奈川		
15	新潟	○	
16	富山		○
17	石川		○
18	福井		○
19	山梨		○
20	長野		○
21	岐阜		
22	静岡		
23	愛知		○
24	三重		

	都道府 県名	全ての学校・ 学科で実施	一部の学校・ 学科で実施
25	滋賀		○
26	京都		○
27	大阪		
28	兵庫		○
29	奈良		○
30	和歌山		○
31	鳥取		○
32	島根		○
33	岡山		
34	広島		○
35	山口		○
36	徳島		
37	香川	○	
38	愛媛	○	
39	高知		
40	福岡		○
41	佐賀		○
42	長崎		○
43	熊本		
44	大分	○	
45	宮崎	○	
46	鹿児島		○
47	沖縄	○	
合計		8	25

他県の推薦入試の例

(平成24年度選抜実施要項より)

	種別	時期	募集割合	資格等	検査内容
東京都	一般	1/24～2/2	約23.0%	中学校長の推薦書必要	面接、調査書、(必要に応じて 作文、小論文、実技検査)
	特別		(約0.9%) ※一般推薦の内数 <文化・スポーツ特別推薦>	・大会実績や技能等の条件あり ・中学校長の推薦書必要	
兵庫県	一般	2/2～2/17	4.4% <特色選抜> (普通科)	特になし	面接、調査書、(必要に応じて 作文、小論文、実技検査)
			約23.4% <推薦入学> (専門学科等)	中学校長の推薦書必要	
広島県	一般	1/20～2/14	約26.0%	中学校長の推薦書必要	面接、調査書、(必要に応じて 作文、小論文、実技検査)
和歌山県	特別	2/23～3/21	約4.1%	・大会実績や技能等の条件あり ・中学校長の推薦書必要	調査書、学力検査(5科目)、 スポーツ実技検査

大阪府学校教育審議会
「新しい時代に対応する府立高等学校教育の改革並びに
高等学校入学者の在り方について」(答申)
(平成7年4月17日)

Ⅱ 高等学校入学者選抜方法の改善

(1) 評定の区分と調査書の記載事項

(略)

(2) 調査書と学力検査の比重

(略)

(3) 受験機会の複数化

ア 専門一次

専門一次の募集人員は、平成6年度選抜においては、全日制の課程の全募集人員の約8%である。また、国際教養科、英語科、理数科等の最近設置した専門学科の専門一次における募集人員は約1.8%になっている。

本分科会は中間まとめにおいて、理数科の専門一次の募集人員の在り方については、受験する生徒の心理的影響等に配慮して検討する必要があること、また、従来の職業教育に関する学科の募集人員の在り方については、中学校卒業者の受験機会の確保や進路希望の動向を踏まえ対応する必要があることを指摘したところである。

専門一次の募集人員の在り方については、中間まとめにおいて述べたところであるが、入学者選抜の実施結果の分析と合わせ検討することが望ましい。

イ 総合学科の選抜方法

今後検討される総合学科については、中学生が系列の特色に応じて総合学科設置校を自由に選択できるよう、通学区域を府内全域とするとともに、専門一次と同時期に募集することが望ましい。

ウ 普通科における受験機会の複数化

今後、体育コース、芸術コース、福祉コース等において、専門学科に準じる程度に専門教科・科目を設ける場合には、専門一次の形態で選抜し、生徒の学校選択の余地を拡大することが望ましい。

(4) 推薦入試

本府以外の都道府県においては、調査書、作文、面接を合否の判定資料として推薦入試を実施している。本府においては、入試の客観性・公平性も配慮して、専門学科において専門一次を実施した経緯も踏まえ、学力検査を実施しない推薦入試の導入については慎重な対応が望ましい。

なお、音楽科等、実技検査において特に専門的な特性が要求される学科においては、別途、生徒の特性を生かすことのできるような入学者選抜方法の在り方について、今後検討することが望まれる。

(5) 定時制の課程における入学者選抜

(略)

「大阪の教育力」向上プラン
 ～公立学校教育への信頼の確立に向けて～
 (平成21年1月)

第2章 今後5年間の具体的な取り組み

目標1 「学校力」を高める

【基本方針2】 すべての府立高校が魅力を高めあい「入ってよかった」と言われる学校をめざします

(重点項目5) 特色づくり・再編整備の成果と課題を踏まえた府立高校の充実

⑤ 入学者選抜制度の改善

《事業概要》

中学3年生の教育活動や進路指導への影響という観点から、前・後期選抜の募集人員を見直し、後期選抜の比率を高めるとともに、一層の改善に向けて入学者選抜のあり方を検討する。

《事業目標》

現状	平成23年度～
前期選抜募集人員の比率 32.3% (20年度府立高校全日制の課程募集人員)	前期選抜と後期選抜の募集人員の比率を見直し、後期選抜の比率を高める

《スケジュール》

平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
前期選抜、後期選抜の枠組みの検討・公表	周知期間	前・後期選抜の募集人員の比率改善		
入学者選抜のあり方検討(学校教育審議会に諮問)	改善方策の具体化について、方向性を提示	改善に向けた取り組み		

大阪府公立高等学校(昼間の高等学校)入学者選抜の変更点の概要

現 行

	前期選抜		後期選抜		学校数
	学力検査	学力検査* 以外	学力検査	学力検査* 以外	
全日制 普通科単位制	国数英社理	×	/	/	4
全日制 専門学科	国数英	△	/	/	5 3
全日制 総合学科(クリエイティブスクール除く。)	国数英社理	○	/	/	1 2
全日制 普通科(専門学科併置校)	/	/	国数英社理	×	2 4
全日制 普通科(専門学科併置校除く。) 普通科総合選択制	/	/			8 3
クリエイティブスクール	/	/	国数英	○	6

○ 実施 △ 一部で実施 × 実施しない

平成25年度選抜～

	前期選抜		後期選抜		学校数
	学力検査	学力検査* 以外	学力検査	学力検査* 以外	
全日制 普通科単位制	国数英	○	/	/	4
全日制 専門学科			/	/	5 3
全日制 総合学科(クリエイティブスクール除く。)			/	/	1 2
全日制 普通科(専門学科併置校)	/	/	国数英社理	×	2 4
全日制 普通科(専門学科併置校除く。) 普通科総合選択制	国数英	○			8 3
クリエイティブスクール	/	/	/	/	6

○ 実施 × 実施しない

(注1) *は実技検査、面接、小論文等を指す。

(注2) いずれの場合も選抜資料として調査書を用いる。

○平成25年度選抜日程の比較

資料3

			従前のイメージ	改定(案)	中学校日程等 (H23実績から想定)
月	日	曜	公立日程 (平成24年度選抜同様)	公立日程改定案	
1月	30日	水			
	31日	木		「前期選拔出願(音楽科)」	
2月	1日	金		↓	
	2日	土			
	3日	日			
	4日	月			
	5日	火			
	6日	水	「前期選拔出願(音楽科)」		
	7日	木	↓		
	8日	金			
	9日	土			
	10日	日			
	11日	月	建国記念の日		
	12日	火			
	13日	水		「前期選拔出願」	
	14日	木		↓	
	15日	金			
	16日	土			
	17日	日	実技検査(音楽科)	実技検査(音楽科)	
	18日	月	「前期選拔出願」		
	19日	火	↓		
	20日	水		前期選抜学力検査	
	21日	木			
	22日	金			
	23日	土			
	24日	日			
	25日	月	前期選抜学力検査		
	26日	火		前期選抜合格者発表	
	27日	水			「保護者懇談(3日間)」
	28日	木			↓
3月	1日	金			↓
	2日	土			
	3日	日		「後期選拔出願(通)」	
	4日	月	前期選抜合格者発表	「後期選拔出願(全・多・定)」	
	5日	火		↓↓	
	6日	水			
	7日	木			
	8日	金	「後期選拔出願(全・多・定・通)」		
	9日	土			
	10日	日	「後期選拔出願(通)」のみ		
	11日	月	↓	後期選抜学力検査	
	12日	火	↓		卒業式予行
	13日	水			卒業式
	14日	木			
	15日	金			
	16日	土			
	17日	日			
	18日	月	後期選抜学力検査	後期選抜合格者発表	
	19日	火			
	20日	水	春分の日		
	21日	木			
	22日	金			
	23日	土			
	24日	日			
	25日	月	後期選抜合格者発表		
	26日	火	二次選拔出願	二次選拔出願	
	27日	水			
	28日	木	二次選抜合格者発表	二次選抜合格者発表	
	29日	金			
	30日	土			
	31日	日			